

山名・山域	富士山
山行目的	日本一の山に登る
山行期間	8月19日（金）～20日（土）
参加者	4名

ルート、コースタイム

19日 7:20 横浜駅西口（高速バス）—10:25 富士山スバルライン五合目（2305m）11:00—11:40 六合目（2390m）—13:00 七合目（2700m）—14:15 八合目（3040m）—15:45 本八合目（3350m）

富士山ホテル別館泊 【歩行時間4時間45分、休憩含む】

20日 6:10 本八合目（下山道）—七合目公衆トイレ—8:20 富士山スバルライン五合目

【歩行時間2時間10分、休憩含む】

山行記録（記録性を重視し、天候、コースの状況・特徴、注意点、必要になった用具など）

1日目：6:50 横浜駅西口 22番バス停に集合、7時発富士山五合目 9時14分着の高速バス（片道2,980円）に乗り込むが、チケットを持たない客と運転手とでひと悶着あり 20分遅れの出発となる。途中停車駅は東名綾瀬バス停、富士急ハイランド、富士河口湖駅、富士山五合目の順である。東名御殿場経由かと思ったが、海老名ジャンクションで圏央道、中央道経由、富士河口湖のルートだった。案の定八王子ジャンクションで5kmの渋滞、結局45分遅れでスバルライン富士山五合目到着。五合目は霧で雨も降っていたが、大勢の人で溢れていた。雨具を着、富士山協力金（1,000円）を支払い11:00 出発。六合目までの半分は平坦で馬車も通って、残りの半分も大した坂ではなく馬に乗っている外人などもいる。六合目には安全指導センターがあり簡易トイレもある。ここから本格的な登りとなる、溶岩の軽石のような砂利道で足をすくわれる。しばらくすると雨もやみ、雨具を脱ぎ歩き始めるが、また雨が降り始める。七合目手前の花小屋までは降ったりやんだりだったが、その上の日出館では霧を抜け雲海が広がり太陽の日差しがまぶしくなる。ここからは岩場の急登の連続になる。山小屋も沢山ある。水400円や食料もある。水は自分のペットボトルを交換してくれる。休憩のベンチもあり、雲海の景色を堪能している人がたくさんいる。欧米人も多い。さすが世界遺産、国際的である。雲も切れ間が多くなり下界が開けてくる。山中湖や河口湖も見えてくる。急登の岩場を過ぎ、また溶岩砂利のジグザグ道を登り続けると本八合目、富士山ホテル第一に到着。15:45分。頂上までは1時間30分で登れる。往復しても2時間あれば戻れるが、とりあえず受付をする。受付した途端、テーブルに座らされ夕食を食べてくれと言われる。後でと言うと次々お客さんが到着するので8時過ぎになると言われ、しぶしぶ夕食をとる。メニューはカレーにソーセージとハンバーグが乗っている。酒は食後にしてくれとも言われる。翌日の朝食（弁当）もこの時渡される。後からあとから到着する客がいるので食事がすむとすぐ追い出され、寝る場所に案内される。未だ明るいので、外のベンチで持参したウイスキーを飲みながら景色を堪能していると、下界に富士山の影をくっきり見ることができた。宝永山の影もきれいに見えた。明日、山頂でご来光（5時日の出）を拝む人は1時30分起床。渋滞するので山頂まで3時間かかるとの事。小屋でご来光を拝む人は4時30分起床、この時間は渋滞は解消しているとの事なので、4時30分起床とした。今夜は7時消灯。

2日目：4時30分起床。外は霧雨、風が強く寒い。山天の情報を確認するとCランクで風速15mとの事。当然ご来光を拝むことはできず。24時間空いているという食堂で昨日渡されたお弁当を食べた。4人で相談の結果、登頂しても景色も見ることができないし、大荒れの天気なので下山することとした。雨具を着ていたが、ドシャ降りの中までグッショリ。ザックもザックカバーを透りこすほどの雨の中、溶岩ジャリ道を下山した。五合目8:20 到着。横浜駅西口行のバスは16:25 発。それまでなし。チケットをキャンセルして富士急ハイランド横にある富士山温泉にはいり、富士急、中央線、横浜線乗り継いで帰浜した。

特記事項

- ・富士山ホテルの食堂は 24 時間営業だが、ゆっくりくつろげる場所ではない。
- ・富士山ホテルでは火気厳禁、バーナーなど持ち込み禁止、小屋の周りでも使用禁止。
- ・トイレは 200 円、宿泊者も支払う。
- ・高速バスのチケットは往復を買わないほうが良い。
- ・富士山温泉にはビールの自動販売機はない。
- ・今回は金曜日だったので登山渋滞はなし、平日ならば横浜からのバスを利用して山頂小屋泊が良い。

以上



